

「標準化事業への補助」

公益財団法人JKA

1. 標準化事業とJKA補助事業とのかかわり 標準化事業にかかわる補助の歴史

- ・昭和31年度・・・日本工作機械工業会「工作機械部品の規格統一に関する調査研究」、日本ねじ工業会「ねじの規格統一に関する調査研究」へ補助を行う
- ・昭和48年度・・・日本規格協会「機械関係のISOおよびIEC国際会議参加促進」事業へ補助を行う

—平成7年にWTOが設立される— 発足と同時に日本加盟(WTO/TBT協定※に批准)

(参考)

※【TBT協定】(貿易の技術的障害に関する協定)
工業製品等の各国の規格及び規格への適合性評価手続き(規格・基準認証制度)が不必要な貿易障害とならないよう、国際規格を基礎とした国内規格策定の原則、規格作成の透明性の確保を規定

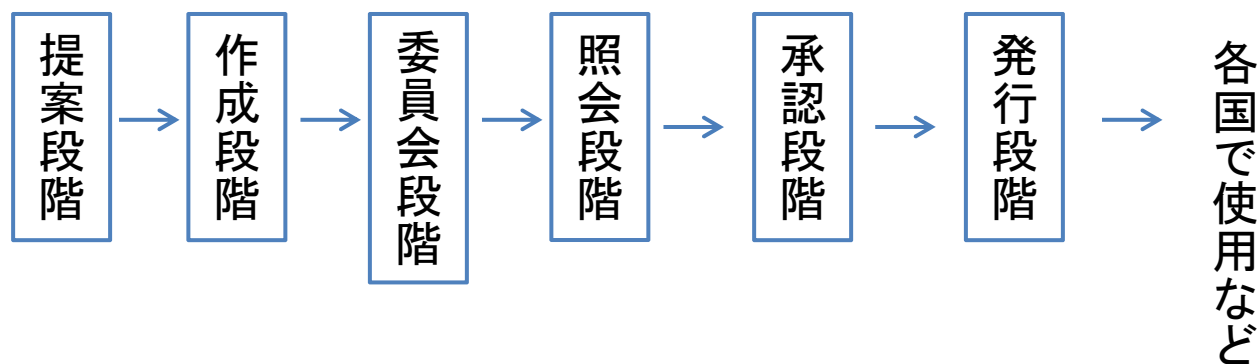
- ・平成10年度・・・機械工業において、企業の事業環境を整備し、新規事業の創出、高付加価値化の推進等を図るのに資するものと認められる事業の1つとして、『製品等の標準化を推進する事業』が補助方針に載る
- ・平成23年度・・・機械工業振興事業の重点事業として「機械工業における標準化の推進に関する事業」が明記される
- ・平成26年度・・・標準化の推進に関連する人材の育成・交流等に関する事業を対象事業に加える

2. 国際標準化の推進について

(1) 国際規格発行までのプロセスの概要

JKAでは、ISO/IECの国際標準を推進する事業に補助を行っている。

ISO/IECの国際規格は、通常6つの段階を踏んで作成される。



2. 国際標準化の推進について

(2) 現在標準化推進中の案件



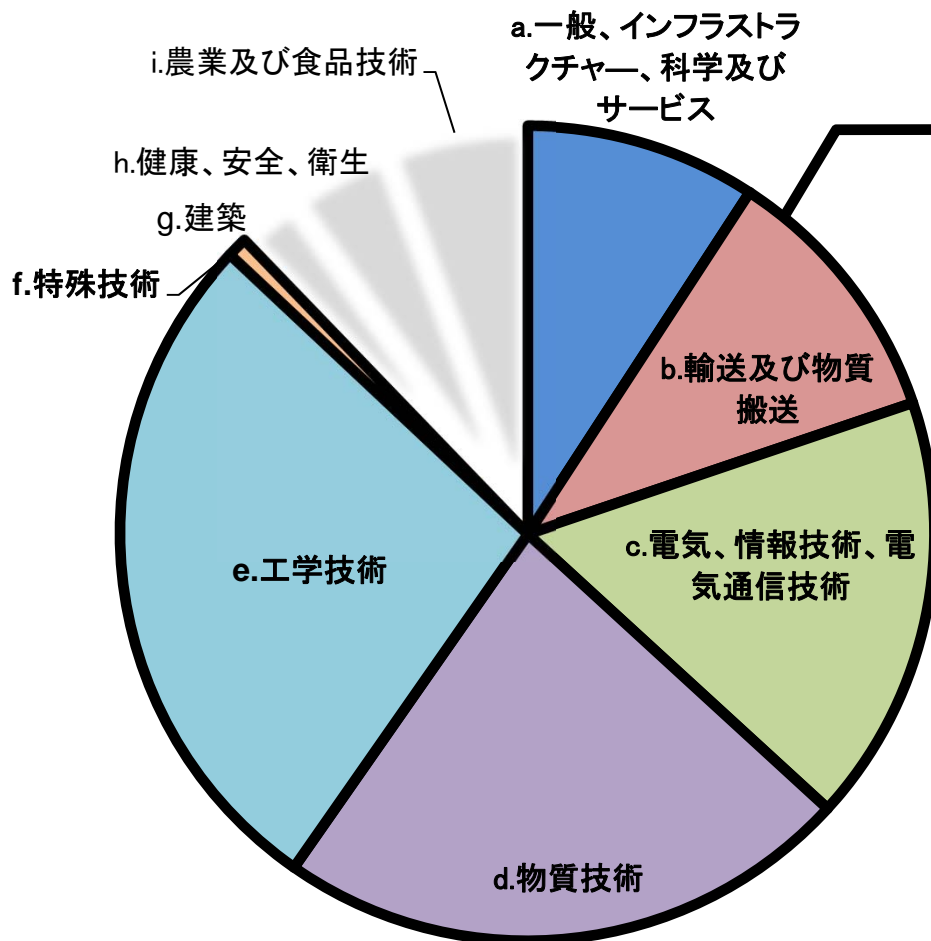
平成27年度補助事業において標準化を推進する案件の段階別件数は下記のとおり

標準化推進事業者	提案前段階	提案段階	作成段階	委員会段階	照会段階	承認段階	発行段階
(公財)国際超電導産業技術研究センター			2件		1件	1件	1件
(公社)自動車技術会	1件						
(一社)情報処理学会		6件		88件	9件	8件	
(一社)日本機械工業連合会	5件	1件	1件	3件	3件	7件	2件
(一財)日本規格協会	6件	5件	10件	15件	3件	2件	
(一社)日本航空宇宙工業会	1件	1件		1件			
(一社)日本ファインセラミックス協会				1件	2件	2件	1件
(一社)日本フルードパワー工業会			2件	14件	9件	15件	8件

平成27年4月現在 補助事業者聞き取りによる

2. 国際標準化推進について

(3) 国際標準の中でJKAが補助している分野



国際標準化されている事項は大まかに9つに分類することができる。JKA補助事業では機械工業振興に関係する分野の一部の標準化活動について補助を行っている。

(参考)

平成27年度国際標準発行関係分野	補助団体
a.一般、インフラストラクチャー、科学及びサービス c.電気、情報技術、電気通信技術 e.工学技術 他	(一財)日本規格協会
b.輸送及び物質搬送 c.電気、情報技術、電気通信技術 f.特殊技術	(一社)日本航空宇宙工業会
c.電気、情報技術、電気通信技術	(公財)国際超電導産業技術研究センター
c.電気、情報技術、電気通信技術	(一社)情報処理学会
d.物質技術	(一社)日本ファインセラミックス協会
e.工学技術	(公社)自動車技術会
e.工学技術	(一社)日本機械工業連合会
e.工学技術	(一社)日本フルードパワー工業会

出典：(一社)国際標準化協議会 発行「ISO事業概要2014」

2. 国際標準化推進について

(4) 近年の補助概況(補助件数、金額、補助団体)



	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
補助件数	10	14	12	19	16
内定金額(千円)	26,962	63,532	45,509	79,168	60,489

※辞退を除く

直近5年の補助実績

補助団体	累積補助金額(千円)	H23	H24	H25	H26	H27	補助団体	累積補助金額(千円)	H23	H24	H25	H26	H27
(一社)エンジニアリング協会	19,650	○	○	○	○	○	(一社)電子情報通信学会	6,532	○	○	○		
(一社)研究産業・産業技術振興協会	20,440	○	○	○	○	○	(一社)日本計量振興協会	4,600		○	○	○	
(公財)国際超電導産業技術研究センター	6,825	○	○	○	○	○	(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会	17,743		○	○	○	
(一社)日本機械工業連合会	36,389	○	○	○	○	○	(一財)海外通信・放送コンサルティング協力	3,329				○	○
(一社)日本航空宇宙工業会	17,948	○	○	○	○	○	(一財)国際経済交流財団	33,333				○	○
(一社)日本ファインセラミックス協会	35,144	○	○	○	○	○	(一財)日本規格協会	13,310				○	○
(一財)国際貿易投資研究所	15,032		○	○	○	○	(一社)日本建設機械化協会	784	○	○			
(公社)自動車技術会	8,993		○	○	○	○	(一財)医療情報システム開発センター	5,748				○	
(一社)情報処理学会	11,925	○	○		○	○	(公財)日本科学技術振興財団	11,215		○			
							(N)日本電磁波エネルギー応用学会	2,544					○
							(一社)日本プラント協会	426	○				
							(一社)日本フルードパワー工業会	2,180					○
							(一財)貿易研修センター	1,570				○	

2. 国際標準化の推進について

(5) 国際規格発行までの手順 〈実例〉

(公財)国際超電導産業技術研究センターの事例

IEC61788-17 電気的特性測定方法-大面積超電導薄膜の局部的電流密度とその分布

日本意見をまとめる国内審議と各国の意見を調整する国際審議がある。

国際標準は各国の投票で決まり、規格発行までには数年かかる。

		提案前段階					提案段階	作成段階	委員会段階	照会段階	承認段階	発行段階		
							H21/4/17	H21/9/18	H23/2/11	H23/10/28	H24/10/12	H25/1/16		
国内委員会	WG8	H17/2/8 国内WGでの提案と審議	H18/2/7 標準化推進を決定		H18/9/21 提案内容確認 H19/1/15 提案内容審議	H20/1/16 新業務項目素案審議		H21/2/16 新業務項目案審議	H21/8/31 作業原案審議	H22/2/12 委員会原案審議 H22/9/7 委員会原案審議	H23/8/23 投票用委員会原案審議	H24/5/25 最終国際規格案審議		
	技術委員会	H17/6/16 検討内容を承認	H18/2/24 2006年国際会議報告を承認	H18/5/25 国際会議内容を承認	H19/2/21 2008年国際会議で提案決定	H19/6/26 計画承認 H20/2/25 新業務項目案作成進捗確認	H20/5/22 国際会議審議内容確認	H21/2/23 条件付きで新業務項目提出承認	H21/6/26 計画承認	H22/2/19 委員会原案提出確認 H22/6/25 計画承認 H22/10/1 国際会議報告内容確認	H23/2/17 国内WG審議承認 H23/6/28 計画承認	H24/2/14 国内WG審議承認 H24/6/20 計画承認		
国際委員会	WG8			H18/6/6 内容報告			H20/7/9 新業務項目案審議			H22/10/11 作業原案審議				
	IEC総会			H18/6/8 内容報告			H20/7/11 新業務項目提案同意			H22/10/13 国際WG審議報告確認	この他、国際会議での国際合意醸成、Web会議での審議を行っている。			

2. 国際標準化の推進について

(6) 近年発行された規格<実例>



標準化推進事業に補助を行った結果、以下の規格が発行された。(一部抜粋)

補助団体	国際規格
(公財)国際超電導産業技術研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・IEC 61788-15 (超電導膜のマイクロ波表面インピーダンス試験方法) ・IEC 61788-16 (マイクロ波帯における超電導体の表面抵抗の電力依存性) ・IEC 61788-17 (大面積超電導薄膜の局部的電流密度とその分布)
(一社)情報処理学会	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO/IEC 10646 (国際符号化文字集合) ・ISO/IEC 14651 (国際文字列照合順番) ・ISO/IEC 30193 (120mm3層 (100.0Gbytes/面)BDリライタブルディスク) ・ISO/IEC 27018 (個人情報を取り扱うパブリック クラウドにおける個人情報保護の実施基準) ・ISO/IEC 27038 (デジタル編集の仕様) ・ISO/IEC23008-2 HEVC (圧縮効率に優れた映像符号化技術)
(一社)日本航空宇宙工業会	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO13832 (銅クラッドアルミ、アルミ電線の一般性能要求に関する規格) ・ISO27027 (半導体電源遮断器)
(一社)日本建設機械化協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO 3164 (土工機械－保護構造の台上評価試験－たわみ限界領域の仕様) ・ISO 7130 (土工機械－運転員の教育) ・ISO 6747 (土工機械－ブルドーザー用語及び仕様項目) ・ISO 7133 (土工機械－スクレーパー用語及び仕様項目) ・ISO 7134 (土工機械－グレーダー用語及び仕様項目)
(一社)日本ファインセラミックス協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO 14603 (CMC有孔引張試験) ・ISO 14610 (多孔体曲げ強さ) ・ISO 14627,14628 (軸受用窒化珪素材料特性試験) ・ISO 23317 (インプラント材料のアパタイト形成能のためのインビトロ評価)

2. 国際標準化の推進について

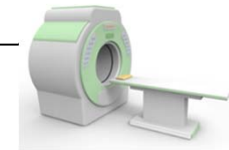
(7) 標準化推進の効果



(公財)国際超電導産業技術研究センター

超電導に関する試験法
(IEC61788-1~13, 15~19)の効果

超電導線、超電導デバイスの評価技術を使用者生産者間で共有できるようになった。
これによって市場拡大を促進していると考えられている。



(一社)情報処理学会

圧縮効率に優れた映像符号化技術
(ISO/IEC23008-2 HEVC)の効果

超高画質の映像を少ないデータ量に圧縮することが可能となり、テレビ放送(4K)やインターネット映像配信の品質向上につながった。



3. 補助事業者による補助事業の公表事例

(公財)国際超電導産業技術研究センターの事例

<http://www.istec.or.jp/istec/H25-nichijishin.html>



ISTEC (公財) 国際超電導産業技術研究センター
International Superconductivity Technology Center

トップページ | **ISTECについて** | SRLについて | 超電導Web21 | 会議案内 | 成果

>>戻る | [H24年度事業概要](#) | [H23年度事業概要](#) | [H22年度事業概要](#) | [H21年度事業概要](#) | [H20年度事業概要](#)

(公財)JKA補助事業について ~平成25年度事業の概要~

当研究センターで実施している調査研究, 普及・啓発, 国際交流の推進事業の一部では, 競争からの補助を受けて実施しています。

超電導技術振興のための普及啓発補助事業の概要

1. 補助事業の目的

1 国際超電導シンポジウム
2 国際交流事業(国際超電導産業サミット)
3 超電導技術動向報告会
4 情報提供事業(超電導Web21)

超電導国際標準化の推進に関する補助事業の概要

1. 補助事業の目的
 - ・ 超電導国際標準化の推進に関する補助事業



(公財) 国際超電導産業技術研究センター

KEIRIN 00 (公財) JKA補助事業 平成25年度事業概要

平成 25 年度 超電導国際標準化の推進に関する補助事業

IEC/TC90 (国際電気標準会議/第 90 専門委員会、超電導) の国内技術委員会の下に 13 の WG (ワーキンググループ) を組織し、委員会活動を通じて超電導関連国際規格のレビュー・改訂と新規規格発行の業務を推進した。



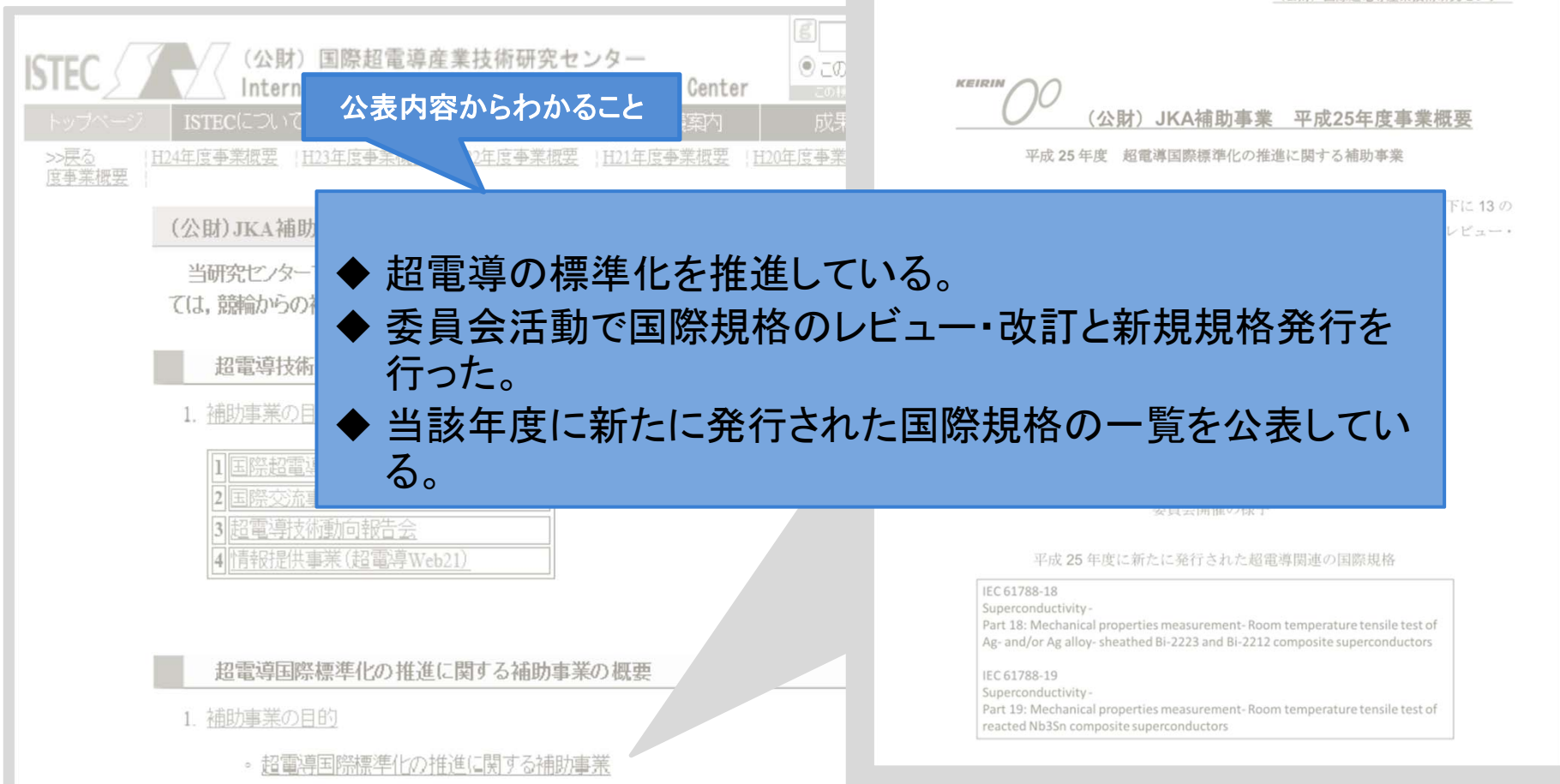
委員会開催の様子

平成 25 年度に新たに発行された超電導関連の国際規格

IEC 61788-18 Superconductivity- Part 18: Mechanical properties measurement- Room temperature tensile test of Ag- and/or Ag alloy- sheathed Bi-2223 and Bi-2212 composite superconductors
IEC 61788-19 Superconductivity- Part 19: Mechanical properties measurement- Room temperature tensile test of reacted Nb3Sn composite superconductors

3. 補助事業者による補助事業の公表事例

(公財)国際超電導産業技術研究センターの事例



公表内容からわかること

- ◆ 超電導の標準化を推進している。
- ◆ 委員会活動で国際規格のレビュー・改訂と新規規格発行を行った。
- ◆ 当該年度に新たに発行された国際規格の一覧を公表している。

超電導国際標準化の推進に関する補助事業の概要

1. 補助事業の目的

- 超電導国際標準化の推進に関する補助事業

平成 25 年度 超電導国際標準化の推進に関する補助事業

下に 13 のレビュー・

平成 25 年度に新たに発行された超電導関連の国際規格

IEC 61788-18 Superconductivity- Part 18: Mechanical properties measurement- Room temperature tensile test of Ag- and/or Ag alloy- sheathed Bi-2223 and Bi-2212 composite superconductors
IEC 61788-19 Superconductivity- Part 19: Mechanical properties measurement- Room temperature tensile test of reacted Nb3Sn composite superconductors

3. 補助事業者による補助事業の公表事例



(一社) 電子情報通信学会 の事例

<http://www.ieice.org/jpn/hyojun/index.html>




Top page > 各種学会活動 > 標準化活動

標準化活動

: 電子工学および情報通信に関する標準化活動。

規格調査会では5の専門委員会と7の小委員会が国際電気標準会議 (IEC) の国際標準規格の審議, 当調査会標準規格の制定, 用語の調査作成等による電子工学および情報通信に関する標準化の事業を行っております。

▶ TC86 光ファイバ / 補助事業

IEC TC86/SC86B(光ファイバ接続部品・受動部品) 幹事国業務は、一部、JKA「機械工における国際標準化推進補助事業」による補助金で運営しています。

Top page > 各種学会活動 > 標準化活動 > SC86B/補助 光ファイバ受動部品

SC86B/補助 光ファイバ受動部品

補助事業名称 ▶ H25年度 機械工業の国際競争力強化に資する標準化の推進に関する補助事業
 補助事業番号 ▶ 25-122
 補助事業名 ▶ JKA補助事業 平成25年度 機械工業における国際標準化推進補助事業
 補助事業者名 ▶ 一般社団法人 電子情報通信学会

1. 事業の概要

(1) 事業の目的
 本会は、電子工学および情報通信に関する学際、技術の調査、研究および知識の交換を行い、もって学問・技術の

・ 専門委員派遣(国際標準化年次総会):
 平成25年10月21名(0名) 米国シヤーロット市
 ()内はJKA補助事業による専門委員派遣

2. 予想される事業実施効果

本事業により反映された日本国意見を含む規格がIEC国際規格として制定されるとともに、制定されたIEC国際規格の日本国工業規格(JIS)の制定に向けて関連する日本国工業規格制定委員会(JIS-C)での検討がなされ、JIS規格として制定されることとなります。
 これらにより、関連する業界の基準・規格が定まり、結果として日本国の産業の振興に寄与・貢献致します。

3. 補助事業者による補助事業の公表事例

(一社) 電子情報通信学会 の事例

公表内容からわかること

- ◆ 通信用伝送線等6つの専門委員会・分科委員会を開催し、国際標準の審議を行っている。
- ◆ そのうち【光ファイバ接続部品・受動部品】の業務の一部についてはJKAの補助金を利用し、国際会議への副幹事・専門委員の派遣、国際規格原案の作成を行った。
- ◆ 日本国意見を含む規格が国際標準として制定され、それとともに日本工業規格(JIS)が制定されることによって、関連する業界の基準・規格に波及し、日本の産業振興に貢献する。

2. 予想される事業実施効果

本事業により反映された日本国意見を含む規格がIEC国際規格として制定されるとともに、制定されたIEC国際規格の日本国工業規格(JIS)の制定に向けて関連する日本国工業規格制定委員会(JIS-C)での検討がなされ、JIS規格として制定されることとなります。
これらにより、関連する業界の基準・規格が定まり、結果として日本の産業の振興に寄与・貢献致します。

IEC TC86/SC86B(光ファイバ接続部品・受動部品) 幹事国業務は、一部、JKA「機械工における国際標準化推進補助事業」による補助金で運営しています。

3. 補助事業者による補助事業の公表事例



Home > 調査・研究報告書

調査・研究報告書

機械工業の全体的レベルアップを図るため、公益財団法人JKAから機械工業振興資金の補助も受け、当会内に専門部会設置して調査研究を行っています。その調査成果についてはホームページで公表しています。また、平成15年度調査研究報告書以降、全文のダウンロード(PDF)ができることと致しました。

調査研究報告書リスト一覧

- ・平成26年度 調査研究報告書リストのご紹介
- ・平成25年度 調査研究報告書リストのご紹介
- ・平成24年度 調査研究報告書リストのご紹介
- ・平成23年度 調査研究報告書リストのご紹介

Home > 調査・研究報告書 > 平成26年度 調査研究報告書リストのご紹介

平成26年度 調査研究報告書リストのご紹介

平成26年度調査研究報告書

日機連では、専門部会等におい関係各位に提供しております。平成26年度事業として発行した報告書のPDFファイルを御覧いただけます。

各報告書についてのお問い合わせ報告書については準備ができています。

- ・平成26年度 ISO/TC199部会成果報告書
- ・平成26年度 IEC/TC44部会成果報告書
- ・平成26年度 ロボット大買事業報告書
- ・平成26年度 機械工業における技術力強化に関する調査報告書
- ・平成26年度 世界の製造業のバリエーションに関する調査報告書

(一社)日本機械工業連合会の事例

<http://www.jmf.or.jp/houkokusho/>

Home > 調査・研究報告書 > 平成26年度 調査研究報告書リストのご紹介 > 平成26年度 ISO/TC199部会成果報告書 (機械類の安全性に関する標準化等調査研究)

平成26年度 ISO/TC199部会成果報告書 (機械類の安全性に関する標準化等調査研究)

平成26年度 ISO/TC199部会成果報告書 (機械類の安全性に関する標準化等調査研究)

[発行機関：一般社団法人 日本機械工業連合会]

[発行年：H27 (2015)] [ページ数：194] [識別：26標準化]

>>この報告書をダウンロードする (9.66MB:PDF)

>>この報告書の要約をダウンロードする (175KB:PDF)

平成26年度
ISO/TC199 部会成果報告書

(機械類の安全性に関する標準化等調査研究)

平成27年3月

一般社団法人 日本機械工業連合会



この事業は、競輪の補助を受けて実施しています。
<http://ringring-keirin.jp>



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。



3. 補助事業者による補助事業の公表事例

Home > 調査・研究報告書

調査・研究報告書

機械工業の全体的レベルアップを図るため、公益財団法人JKAから機械工業振興資金の補助も受け、当会内に専門部会設置して調査研究を行っています。その調査成果は、本会ホームページに公表しています。また、平成15年度調査研究報告書以降、全文のダウンロード(PDF)ができます。

(一社)日本機械工業連合会の事例

公表内容からわかること

- ◆ 機械類の安全性、溶接の標準化を推進している。
- ◆ JKAから機械工業振興の補助を受け、専門部会を設置して、各種調査研究を行っている。
- ◆ 調査研究の報告書はリスト化され、全文ダウンロードできるようにし、会員・関係各位に提供している。

調査研究報告書リスト一覧

平成26年度 調査研究報告書リストのご紹介

- ・平成26年度 調査研究報告書リストのご紹介
- ・平成25年度 調査研究報告書リストのご紹介
- ・平成24年度 調査研究報告書リストのご紹介
- ・平成23年度 調査研究報告書リストのご紹介

平成26年度 調査研究報告書リストのご紹介

[発行年: H27 (2015)] [ページ数: 194] [識別: 26標準化]

>>この報告書をダウンロードする (9.66MB:PDF)


>>この報告書の要約をダウンロードする (175KB:PDF)

平成27年5月

一般社団法人 日本機械工業連合会

この事業は、脱炭素の補助金を受けて実施しています。
<http://ringing-keirin.jp>

この事業は、脱炭素の補助金を受けて実施したものです。



3. 補助事業者による補助事業の公表事例

(公財) JKA補助事業等

1. 平成27年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣
2. 平成27年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣
3. 平成27年度 国際会議出席報告書

※ 過去の(公財) JKAの補助事業については、
 ※ (公財) JKAの補助事業については、下記の



この度当協会では、公益財団法人JKAからの補助事業に
 派遣に係わる補助事業の公募を次のとおり実施す

1) 事業の趣旨

近年の国際化社会において、国際標準の重要性は

3. 国際会議出席報告書

(公財) JKAの補助事業として実施したISO/IEC国際会議への専門家派遣に関わる報告書類を今後下記に掲載していきます。

- 平成26年度 国際会議出席報告書 (PDF)

会議名	開催地 開催期間	派遣団体	派遣者名	参加	議事
ISO/TC 267 WG2	2014年9月11日(木)、 12日(金) 英国、ロンドン	公益財団法人日本ファシリティマネジメント協会	小林寛(公益財団法人日本ファシリティマネジメント協会 事業部長)	10名(7か国)	ISO/CD18480-2 (Facility Management — Part 2: Guidance on the sourcing process and development of agreements) 審議
ISO/TC142(一般換気用および産業用ガス清浄化装置)/WG3(一般換気用フィルタ) ISO/TC142(一般換気用および産業用ガス清浄化装置)/WG1(用語) ISO/TC142(一般換気用および産業用ガス清浄化装置)/WG2 (UV-C技術) 及び ISO/TC142(一般換気用および産業用ガス清浄化装置)/全体会議	2014年 9月 22日~25日 イギリス国 ロンドン市	公益財団法人 日本空気清浄協会	林 敏昭(東洋紡株式会社 機能材開発研究所AC開発グループ部長) 奥山 一博(進和テック株式会社 営業本部技術グループ 課長)	14か国	WG4 : ISO29463-1 (High-efficiency filters and filter media for removing particles in air -- Part 1: Classification, performance testing and marking) 改正審議 ISO29463-5 (High-efficiency filters and filter media for removing particles in air -- Part 5: Test method for filter elements) 改正審議 WG3 : ISO/CD16890-3 (Air filters for general ventilation -- Part 3: Determination of the gravimetric efficiency and the air flow resistance versus the mass of test dust captured) 審議 ISO/CD16890-4 (Air filters for general ventilation -- Part 4: Conditioning method to determine the minimum fractional test efficiency) 審議 WG2 : PW115714 審議 PW115717 審議 WG8 : PW110121-3 (デハイスのクラスタ分類) 審議 PW110121-4 (フィールド試験方法) 審議 その他: 新規案件 (原子力用 HEPA の仕様) 審議 DIS16170 (In situ test methods for very high efficiency filter systems in industrial facilities)
CEN/TC138(非破壊試験)	2014年9月19日 フランス国、パリ	一社) 日本非破壊検査協会	荻野裕治 (ISO/TC 135 国際幹事、(一社) 日本非破壊検査協会)	8か国、16名	CEN で検討されている規格等に対する ISO/TC135 (非破壊検査) の対応のための調整。 NDT 技術者の資格認証規格関連 (prCEN/TR 16332 "NDT- Interpretation of EN ISO 17024 for NDT personnel certification application" の調査 prEN ISO/TR 25107 "Guidelines for NDT training syllabus" and prCEN ISO/TR 25108 "Guidelines for NDT personnel training organization" の調査 RT (放射線透過試験)、UT (超音波探傷試験)、ECT (渦電流探傷試験)等に関する CEN の活動調査
ISO/TC172 (光学及びフォトニクス)	2014年9月22日~25日	日本医用光学機器工業	岡田 祥宏(オリンパス株式会社 専務)	3か国、12名	ISO/DIS 8600-2"Particular requirements for rigid bronchoscopes"審議

(一財)日本規格協会 の事例

<http://www.jsa.or.jp/itn/kaigishien.html>

3. 補助事業者による補助事業の公表事例



(公財) JKA補助事業


1. 平成27年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣

2. 平成27年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣

3. 平成27年度 国際会議への専門家派遣

※ 過去の (公財) JKAの補助事業

※ (公財) JKAの補助事業



この度当協会では、公益財団法人として、国際標準の重要性は

1) 事業の趣旨

近年の国際化社会において、国際標準の重要性は

3. 国際会議出席報告書

(公財) JKAの補助事業として実施したISO/IEC国際会議への専門家派遣に関わる報告書類を今後下記に掲載していきます。


- 平成26年度 国際会議出席報告書 (PDF)

公表内容からわかること

- ◆ JKAからの補助金を受けて、国内審議団体のISO・IECの国際会議へ専門家の派遣を行っている。
- 平成26年度に派遣を行った専門委員会名称
TC142(一般換気用および産業用ガス清浄化装置)、TC138(非破壊試験)、TC172(光学及びフォトニクス)、TC190(地盤環境)、TC127(土木機械)、TC167(鋼構造及びアルミニウム構造)、TC38(繊維)、TC22(自動車)、TC171(文書画像アプリケーション)、TC109(低圧系統内機器の絶縁協調)
- ◆ 国際会議の出席報告書を掲載している。
- ◆ 出席報告書の記載内容は会議名、開催地、派遣団体、派遣者、参加国、議事。

開催地 開催期間	派遣団体	派遣者名	参加	議事	
2014年9月11日(木)~12日(金) 英国、ロンドン	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会	小林 康 (公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 事業部長)	10名 (7か国)	ISO/CD18480-2 (Facility Management — Part 2: Guidance on the sourcing process and development of agreements) 審議	
2014年9月22日~25日	公益社団法人 日本空	林 敏昭 (東洋紡株式会社 機能材開発)	14名(4国)	WG4 : media for removing particles (ring and marking) 改正審議 media for removing particles s) 改正審議 ation - Part 3: Determination resistance versus the mass of ation - Part 4: Conditioning (test efficiency) 審議 efficiency filter systems in 5 (非破壊検査) の対応のため 6332 "NDT-Interpretation of n application" の調査 ning syllabus" and prCEN "training organization" の調 ECT (漏電流検出試験)等	
ISO/TC172 (光学及びフォトニクス)	2014年9月22日~25日	日本医用光学機器工業	岡田 祥宏 (オリンパス株式会社 事業部)	3か国、12名	に関する CEN の活動調査 ISO/DIS 8600-2 "Particular requirements for rigid bronchoscopes" 審議

(一財) 日本規格協会 の事例



17

4. 標準化の推進に関連した対象事業の追加

『機械工業の国際競争力強化に資する標準化の推進』に加え、

『標準化の推進に関連する人材の育成・交流等に関する事業』を平成26年度より補助対象事業とした。

(一財)エンジニアリング協会
が行った平成26年度事業の例



エンジニアリング業界セミナーH27
基調講演の様子

大学でのエンジニアリング
講座の様子



国内の学生向けエンジニアリング産業研修会や大学におけるエンジマネジメント講座を開設することにより、エンジニアリング産業の将来を担う学生に、業界の魅力と社会インフラ整備に貢献する姿を伝え、より多くの学生にエンジニアリング産業のプロモーション活動の効率化と当産業を目指す若い人材の育成とその母集団の増加を目指す。

5. 今後に向けた考え方

- 国際標準には、製品の品質、性能、安全性、寸法、試験方法などがあり、規格発行に費やす時間も様々であるが、1つの規格発行に通常3年程度の時間がかかる。
- 標準化により、利便性の向上、市場拡大といった効果が見られた規格がある一方、法改正等で参照されたり他規格へ引用されたりしたが、その効果が現れるには時間がかかるものもあった。
- 国際市場において標準化とは必要不可欠なものであり、機械工業振興補助事業で対象としている「自転車その他の機械の改良及び輸出の振興並びに機械工業の合理化に寄与する事業」に資するものである。
- 標準化事業は活動の専門性が高く、一般には理解し難い内容を含むこともあるため、可能な限り具体例を用いて成果を可視化するよう努める。
- 国際標準化事業に補助を行うことは機械工業の振興に大きく寄与できると考える。

〈参考〉

(1) 国際標準とは



国際標準とは、製品の品質、性能、安全性、寸法、試験方法などに関する国際的な取極めのこと。

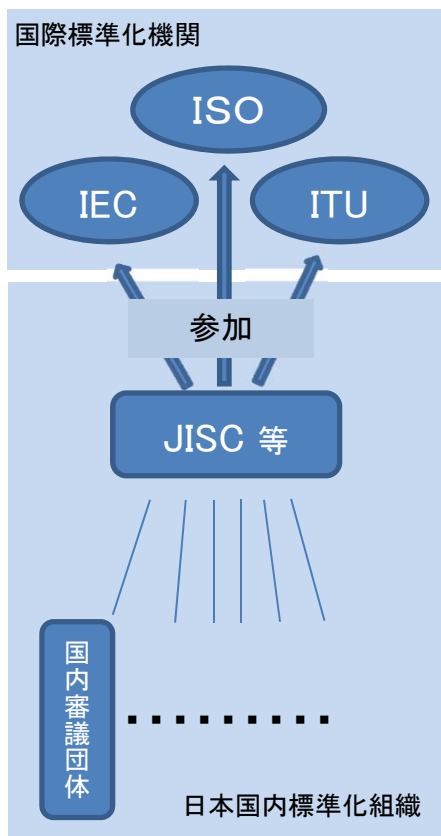
国際標準化の意義

国際市場においても円滑に経済取引を行っていくには、相互理解、互換性の確保、消費者利益の確保などを図ることが重要であり、いずれが保証されなくても取引上大きな障害となる。また、新技術・製品の国際的普及のためにも、技術内容が国際的に理解できる形で共有されていることが重要であることから、国際標準化への取り組みは極めて重要。

(日本工業標準調査会HPより、一部略)

〈参考〉

(2) 国際標準化機関



国際標準化を推進する機関は3つ。
そのうち、JKAが補助している標準化推進事業が関係している機関はISOとIEC。

国際標準化機関	ISO (国際標準化機構)	IEC (国際電気標準会議)	ITU (国際電気通信連合)
活動分野	電気・電子、電気通信以外の全ての分野	電気・電子技術分野	電気通信分野
発行規格数	約19,900	約6,900	約5,400
参加国数	164カ国	82カ国	193カ国

2013年12月時点